

館報

おおくま

おもな内容

- 2面……西ドイツからスポーツ少年団員来町
- 3面……清流、親子登山、なかよし教室
- 4、5面……スポーツ結果
- 6、7面……研修レポート
- 8面……文芸
- 9面……みんなのひろば
- 10面……町史探訪

発行編集 大熊町公民館  
印刷所 新栄社写真美術印刷(株)



自然を満喫  
— 親子体力作り教室 —

十月十一日に実施された親子体力作り教室は、あいにくの曇空の中で、親子一七名の参加者で、午前六時三十分大熊町公民館で開会式を行った後、バス三台に分乗し一路磐梯吾妻スカイラインへとバスの中では、それぞれ歌合戦や、しり取りクイズやゲームをたのしんで和気あいあいのうちに登山口へ。

参加者一斉に頂上を目指して出発。一時間三〇分の行程もなんのその。

難所も切り抜け、紅葉の中、汗を流して行軍……。小川にて昼食を取り、めざすは吾妻小富士の頂上へ。

吾妻の山々は磐梯朝日国立公園に含まれ、東吾妻、西吾妻の火山群に分れ一切経山が噴煙をあげ、山中にはヤエハクサンシヤクナゲが群生し、眼下には高湯、ぬる湯、土湯、野地温泉等が山麓に点在しており、山頂をきわめた満足感と大自然の雄大さと秀節の訪れとともに、生命のいぶきをよみがえらせる偉大な力に思い思いに山頂に別れをつけ下山した。

吾妻連峰のすばらしさを満喫した一日でした。



### 第九回日独スポーツ少年団同時交流派遣 グーテンターク・こんにちば

## 西ドイツから スポーツ少年団員来町

スポーツ少年団に国際交流と日本の生活を体験させるため第九回日独スポーツ少年団同時交流派遣団員班長ヴィルフリード・モルロックさん外七名が八月四日より二泊三日で各家庭に民泊した。

民泊先には、剣道スポーツ少年団山田安隆宅、大小スポーツ少年団石田宗昭宅、剣道スポーツ少年団指導者田澤憲郎宅、暁スポーツ少年団志賀一雄宅に二名ずつお願いしました。

西ドイツスポーツユニオン大熊町受入れ八名は、大熊町スポーツ少年団本部長志賀友定ら関係者多数の歓迎にむかえられ、町長表敬訪問後公民館で歓迎パーティーが開かれた。

西ドイツの団員たちは念願の太平洋の荒波での海水浴、民泊での色々な思い出に、浪江町いこいの村で別れを惜しみました。さようならニューアゲンドイツ

### ホーム・ステイを 終えて

大川原 石田真奈美



八月四日ドイツのお客様を二人迎えました。大熊町のスポーツ少年団と交歓会に来たドイツ人八名です。その内女性二人が私の家に泊まりました。私の家でも外国のお客様を迎えたことはありませんが泊まるのははじめての事なので、いろいろと準備に手間取りました。父、弟は庭の手入れ、母は献立の作成、私は英語と独語の勉強と一日一日がすごい速さで過ぎてゆきました。

### 日独同時交流に 参加して

暁スポーツ少年団 下宮 克徳



八月四〜五日の二日間、西独スポーツユニオンの団員が大熊町に民泊滞在し、私達団員と交流を行いました。一行は閉長をはじめ

当日は、家族全員緊張の連続でしたが、時間がたつにつれ外国人特有の人なつっこさですぐ私達の緊張をほぐしてくれ友達になれました。

父母、親類の人達も雰囲気にもまれ、片言の英語とジェスチャーで楽しく話したり、歌ったりして一日目はバーベキューパーティーなどをして過ごしました。

彼女達と五日間行動を共にしてみても驚いたことは、生活がたいへん質素なこと。靴やバック又使っている様です。日本人は「烏合の衆」で一人が動くと一緒に従う様な傾向がありますが、彼女達は自分なりの信念を持って、自分なりの流行、個々の生活を大切にしているのです。そして、自分の国を愛し、家族を大切に父兄ももちろん兄弟の写真までいつも

大学生一人、高校生六人の八名で、半数は女性ですがなかには身長一八〇cmを超える人もいて大変驚きました。

初日は歓迎レセプションが行われ、町からは町長さんをはじめとする関係者の方、彼らが民泊する受入れ家庭の方、大熊町のスポーツ少年の団員が出席しました。始めは言葉が通じなくて意志が伝わらず戸惑いでしたが、時間がたつにつれお互いうちとけてなごやかな雰囲気のうち一日が終わりました。二日目はバレーボールの交歓会

持参し、一人ひとりについて誇りを持った様子でくわしく説明してくれました。

教えられたことはまだたくさんありますが、これら二つを例に取ってみても、「質素」だと言われてきた我々日本人が忘れかけている何かを私に思い起こさせてくれました。

今でも文通を続けていますが、本当におそわる事が多い有意義なものです。これからも彼女達にとって良い日本人でいるためにも、もっといろいろな勉強をして、彼女達にはずかしくない生活を送ってゆきたいと思えます。



を行い、その後みんなで海水浴を楽しみました。バレーボールは西独ではあまり一般的なスポーツではないためか、ゲームにならず数人ずつに分かれて行いましたが、この方が大いに交流がはかられ楽しかったようです。

わずかの間でしたが、彼らの派遣団員としての自覚とその礼儀正しさに感心し、外国の同世代の人達と友人になれたことに大変喜びを感じました。もっともこのような機会と時間があれば良いのにと思いました。

# なかよし教室 文化財をたずねて

熊小六年 末永ますみ



十月十日午前八時三十分大熊町公民館に集合し、講師の松本幸一先生のお話を聞いてバスにのり、私たちの町の歴史やほかの町の歴史を楽しみながら学習するため、いくつかの遺跡見学をしました。始めに双葉町の装飾壁画のある清戸迫横穴古墳を見学しました。横穴古墳について講師の松本幸一先生の説明を聞きながら、おおよその人たちの生活のことが少しわか

ったような気がします。この古墳は、一月・四月・七月九月・十月の第二日曜日にだけしか一般公開しないとのこと。次に、夫沢の相馬公頭彰碑、五郎四郎一里塚、熊町一里塚を見ました。この五郎四郎一里塚と熊町一里塚との間は一里(約四km)あるそうです。昔、この一里塚を目標に歩いたそうです。さいごに、熊町にあるはなごり地蔵と初発神社をたずねました。そして、松本先生に参拝のやり方を教えてもらいました。始めに頭を二回さげて、手を二回たたいた

てまた頭を一回さげるのが本当のやり方なんだそうです。大変勉強になりました。来年のお正月の初詣でのごときこのようにしてやりたいと思います。三角屋の国道の交差点にある大きな松の木が三本たっています。これは昔の街道ぞいにあった松の木を移植したそうです。私は、今日の見学では双葉の古墳が一番心に残っています。



## 清流

子供をしつけるのに、ほめ方、しかり方がよく問題になります。さて、今子供のころをふり返ってみますと驚くほど父に叱られたという記憶がありません。小学二・三年のころでしたか、私は父のそばにいて何かの拍子で急に近くにあった小机を動かしました。すると、その角が思いがけず父の向こうずねにぶつかってしまいました。父がアツと痛そうな顔をし、私はびっくりして「ごめんさい」と叫んだ気がします。そしてゴツンとくるか「馬鹿ノ」とでも言われることを一瞬覚悟しました。



## 叱られたこと 叱られなかったこと

大熊町婦人会長 志賀トリ子

じたことを、つい昨日のように思い出すのです。父はよい意味での教育パパで勉強にはよくつきあってくれました。それに甘えてか、女の子らしく母のまわりをうろうろして一緒に食事の仕度を手伝ったという記憶があまりありません。

ある時お握りを作ろうとしたら、すっかりバラバラになって形になりませんでした。その時母に「口ばかり達者でもだめノ」とひどく叱られました。それ以来いくらか身のまわりにも関心をもつようになった気がします。

子供は回りの大人達からタイミングよく、また納得のゆくしかり方をされてだんだん成長していくのではないのでしょうか。



## 親子登山の 思い出

大小四年 島 晃洋

ぼくが親子登山に参加するようになって、今年で二年目になりました。観光バス三台で、鳥子平にむかうと中、ぼくの乗っていたバスガイドさんが「鳥子平」の名前の由来を教えてくださいました。それによると、ここにはいろいろな種類の鳥がたくさんいるので、そういう名前になったということです。登山をはじめの前、吾妻小富士のまわりを、約一時間ぐらい歩いて、いろいろな所を見ました。きれいな紅葉、そして高山植物もたくさんありました。そろそろおながすいたころ、沢におりたら、きれいな川原がありました。みんなでその川原で、お弁当を食べるようになりました。おなががまんぶくになったところで、吾妻小富士に登りました。ぼくは、高い所が苦手なので、頂上についた時は、こしがぬけたようにしゃがんでしまいました。下りる時はお父さんに手をつないでもらって下りました。すこし天気が悪く、寒かったけれど、同級生もたくさん参加できたので、楽しい登山でした。来年も、みんなで参加しようと思っております。今から楽しみです。



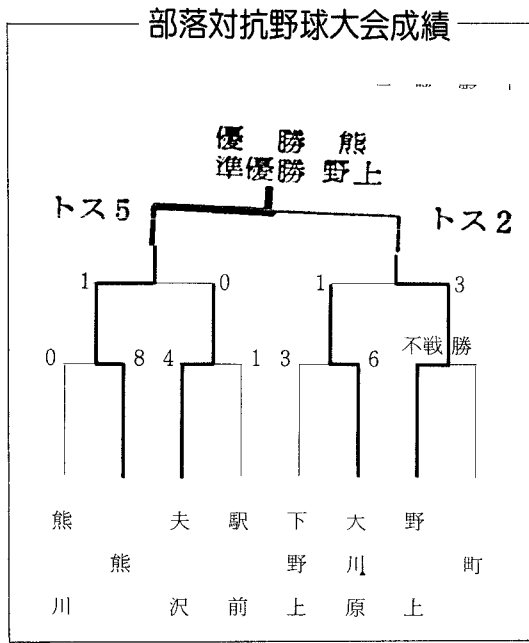


九月十二日大熊町菅第一体育館で川俣町修真会剣道スポーツ少年団と大熊町剣道スポーツ少年団との交流会が開かれた。  
 交流のきっかけは、熊字旭台に住む菅原利雄さんと川俣町修真会剣道指導者渡辺与一さんとは、軍隊で生死を誓い寝起きを共にした仲であり、子供の剣道がきっかけに計画されたものです。  
 この日は、合同練習の後、対抗試合・昼食・そして東京電力(株)福島第一原子力発電所を見学して多くの団員と交流を深めました。  
 川俣町修真会は、九月五日の二本松少年隊顕彰第二十五回県下少年剣道大会で、県内各地から八十六チームが参加した中でみごと優勝した県下一の少年団です。

川俣町剣道スポーツ少年団と交流会開く

種目	町村名	大熊町
陸上男子		1位…8点
陸上女子		5位…4点
柔道		5位…4点
剣道		7位…2点
銃剣道		5位…4点
相撲		4位…5点
庭球男子		5位…3.5点
庭球女子		4位…5点
卓球男子		3位…5.5点
卓球女子		5位…3.5点
バレーボール男子		5位…2.5点
バレーボール女子		2位…7点
バレーボール家庭		2位…7点
ソフトボール壮年		5位…2.5点
バスケットボール		1位…8点
バドミントン		3位…6点
総得点		77.5点
順位		4位

郡総合体育大会  
 総合で第四位



町民体育祭  
 熊チームが優勝!

種目	部落名	野上	下野上	駅前	大川原	熊	熊川	小入野	町	夫沢
壮年ソフトボール		9	6	10	8	4	6	6	6	8
家庭バレーボール		5	9	3	2	8	7	10	4	6
玉入れ		7	9	2	7	3	7	5	4	10
婦人消防隊		9	2	6	3	7	10	5	8	4
消防訓練		6	4	2	10	8	9	7	3	5
綱引き		8	8	6	6	10	6	4	9	6
100m走(女)		2	3	2	4	5	2	2	2	2
100m走(男)		2	3	2	2	4	2	2	2	5
200m走(女)		2	2	2	3	5	2	4	2	2
200m走(男)		5	2	2	2	4	2	2	2	3
部落対抗リレー(女)		6	8	2	3	5	9	4	10	7
部落対抗リレー(男)		9	10	8	5	7	6	2	4	3
合計		70	66	47	55	70	68	53	56	61
順位		2	4	9	7	1	3	8	6	5

※ 同得点の場合上位入賞種目の多少によって順位を決定



# 研修レポート

## 中央リーダーズスクール参加を終えて

暁スポーツ少年団 加藤 嘉浩



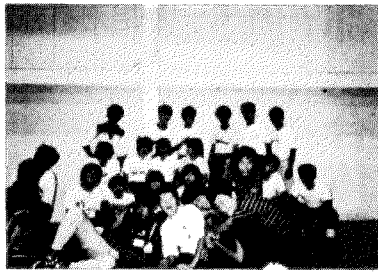
八月十二〜十七日までの五日間指導者養成のためのリーダーズスクールに参加するために秋田県田沢湖町へ行って来たのですが、今思うと本当によかったと思います。

まずその生活内容は、朝六時起床で三十分頃から約一時間スポーツテスト、そして九時から、一日三人の講師の人たちの講義を一時間ずつ聞き、二時頃から又スポーツテスト、夜は夜でミーティングやら自主プログラム活動として機関誌づくりと本当にハードな日程で大へんだと思えば大へんなのですが、昼食時の休み時間、夜寝る前の時間と限られた時間ではあったのですが、他県の人々たちとガヤガヤと騒いだり、自分たちの団の話しを話したり本当に楽しくすごしてきました。

最後の夜は交歓会で、各班ごとで出し物を発表しあったり、全員でダンスしたりして楽しくすごし、最終日は、講義をどのくらいおぼ

えているかためず簡単なテストをやって、その後ミーティングをして解散とアツという間に過ぎてしまい、短い間ではあったのですが、本当に最終の日などはもう少し残っていたい気もしました。

今回参加して、ただ行ってきただけということだけではなく、少しでも町の団に役にたてるようにこれからも頑張りたいと思います。



## 東北ブロックスポーツ少年団大会に参加して

柔道スポーツ少年団 志賀 基広



七月二十八日から青森県で行われた東北ブロック大会に参加しました。

青森までずいぶん時間がかかると思っていたが、電車の中でみんなと話をしているうちにあつという間盛岡駅につき、福島県の各代表者があつまる会場である青森県十和田湖町のある民宿に前泊をした。

東北ブロック大会では、きまつた時間にきまつた行動をしなくてはならなかったので、行動するときにはなにも考えずに行動した。そのきびしい行動が、僕たちリーダーがそういう経験を生かし、仲間を動かす勉強だと思った。

僕は、そのきびしい行動の中から友情が生まれました。その人とは、いつもいっしょに行動をしていたので、すこしはらくになったと思います。最後の日には、あと一日、一日でもいいから長く青森にいたいなあーと思った。たったの三泊四日だったが、僕にはいい勉強になったと思います。きめられた時間にきめられた行動をすることも出来るようになったし、ぜんぜんしらなかつた人とも

## 婦人教育指導者研修会に参加して

57年度研修生 多門 静江



前期・後期と養育で行われたこの研修会に参加させて頂き、先ず感じた事は、参加者全員が生き生きとしていた姿でした。ほとんどが40代、50代でしたが皆自信に満ちた、前途洋々たる若いお嫁さんという感じでした。

私も、不安と責任の重さを感じながらも、この研修にのぞみました。前期では、管内の情報交換や会議の進め方等、自分もその役柄になりきっての演習など、そしてホームワークを手に……ホームワー

クでは、部落の方々のご協力を得て無事まとめ上げる事ができました。今回は、木幡先生も御一緒でしたので、前期程の苦痛は感じませんでした。今回は、一番大役というか苦手な記録係にあたってしまい、まとめあげた時は、入浴時間切れ……そんな中で、私にとって一番印象に残っている事は、キャンドルサービスの進め方の一コマです。私達が地域に帰ってのボランティアにしろ、団体活動にしろ困難にぶつかった時、このか細い一本のろうそくの灯を思い出し、一本より二本、二本より三本……百本集まれば、これだけの明るさ・輝きがある、地域の連帯、”和と輪”を大切に……という事でした。青少年問題にしろ、高齢化社会問題にしろ、このカギは、連帯感であって、思いやり、”心”があれば解決が出来、年寄りが増えていても、おのおのを含めて役割を持ち、大事にされる高齢者ではなく、必要とされる高齢者になろうという事でした。

私も前期では、味わう事のできなかった、この喜びをかみしめ、先輩の方々の仲間入りをさせて頂き、まだ未組織ではありますが、先ず足元からやれる事から始め、自分がしてもらって嬉しかった事を、一人でも多くの方々に還元出来るよう頑張りたいと思っています。



# 東北ブロックススポーツ少年団の思い出

剣道スポーツ少年団 高橋 順子



七月二十八〜三十日の三日間、私は剣道スポーツ少年団代表として青森で行われた東北大会に参加してきました。

東北六県からの参加者二一六名が百人たらずの学校へ宿泊し、私は音楽室に泊まることになりました。教室も小さく四十人がねとまりをしました。あのきつきさは思い出すと金しぼりにあったみたいにお動かせずの状態でしたが私達はまだまだでした。なにしろ廊下にねる人もいましたから……

食事は自分達でかなあと考えていました私、自衛隊の人達がつくっているのを見て陸上自衛隊の本職ってなんだろうと友達とお話をしました。

二日目はちょっと雨降りだったのですが、ハイキングをやりました。はじめての道だし、坂道ばかりだったのできつかったのですが、友達といっしょだったし雨もやんでくれたし、十和田湖も見たい海みたいに大きく見えた湖が日光をうけてキラキラ光っているのがきれいでした。

午後はバレーボール、私の班は二敗してしまっただけで優勝チー

ムにはポカリスエットが一本ずつでしたが私達はなにももらえませんでした。食事も終わり夕方キャンプファイヤーになり、火が点火されたときメラメラとあたりが明るくなり、各班の出しものが披露されました。資料館長さんがスウェーデンのフラダンスを、もちろん男の人が女の人にばけてフラダンスの衣装を着てみんなの前を歩いて握手したりするんです。女の子はみんな逃げるし、もう大変でした。最後にみんながトーチを一本ずつ持って、いっせいに火をつけた時の美しさと感動は言葉ではあらわせないほどでした。

三日目は閉会式をやり、残っていた人々は私達のために大きな輪をつくりチクサクコールをし、アーチもつくってくれて、もう一生忘れられない思い出でした。

公民館講座として六か月間開講してきましたが、このほど十二名の修了者をもって閉講となり、引き続き有志者をもって手話サークルありんこを発足しました。

## 手話サークル ありんこ発足

活動日 毎月第一・第二・第三金曜日 午後七時から  
大熊町公民館で

## 大熊町写真クラブ 発足

写真技術の向上と会員相互の親睦と融和を目的に大熊町写真クラブが発足しました。  
会長 渡部新治 副会長 小田弘道・加藤智徳

## 暁野外 研修終わる



暁スポーツ少年団は去る九月二十六日宮城県菅生のスポーツランドにおいて三十名の参加者を集めフィールドアスレチックを行った。これは、自然に親しみながら、片寄らない身体の発達を必要とする少年期の子どもたちに総合的な体力を与え、同時に現在の自分の運動能力を診断してみようというのねらい。この日は、自然の中に百種類の運動器具が配置されているコースで実施され、団員はスタートから一つ一つの器具をこなし、約二時間をかけゴールし快い汗を流した。

去る十月一日より二泊三日で青年学級宿泊研修会が熊川の久麻川荘において開かれた。この宿泊研修会は、青年として責任・協力・友愛・奉仕の資質を向上されることを目的に実施されたものである。

## 宿泊研修会に 参加して

青年学級生 佐々木 淳



去る十月一日より二泊三日で青年学級宿泊研修会が熊川の久麻川荘において開かれた。この宿泊研修会は、青年として責任・協力・友愛・奉仕の資質を向上されることを目的に実施されたものである。

一日目は、午後六時に開会し、夕食後二時間に亘り自分の将来について討議され、それぞれの現在の家業、勤めについて活発に話し合いが行われた。第二日目は、午前五時に起床、奉仕作業を実施し、熊川の河川・海岸のゴミや空カン拾いを行った。その後朝食をとり宿泊先から各自の職場へ出勤した。

午後六時に再び集合し、夕食後OBを迎え、これからの青年学級活動について討議された。その中では、青年学級に参加する者が少ないので魅力ある青年学級をつくるにはどうしたらよいかなどを中心に話し合い、結果として青年学級に対する理解を一人ひとりが自覚するということになった。三日目は、午前五時に起床し、

夫沢アトムユニオンズOBチームとソフトボールを通じた交歓を予定していたが、定刻に起床できず夫沢チームの方に起こしに来てもらうというハプニングもあり、改めて無責任さを感じざるをえなかったが、ともあれ予定通り宿泊研修会を終了することができた。

この研修を通じたことであるが、青年学級が集団である以上各自が活動の目的を明確に自覚し相互の協調と責任感を持って進めなければならないということである。そうした協調性・責任感というものはまた、集団活動の中で培われるものであるということを再認識した次第である。

日頃、私たちの生活に枕を並べ夜を通して語り合う機会は殆んどなく、自己のあり方、自分以外の発見もあり有意義な研修であった。



# 文芸

## 詩



### いたざら赤ちゃん

熊小三年 赤井 克美

おかあさんの頭  
クシャ クシャ  
おとうさんのしんぶん  
クシャ クシャ  
おもしろい  
おねえさんのあみもの  
クシャ クシャ  
ぼくが ようやくかきあげたえ  
クシャ クシャ  
くやしい  
しゃくだから  
赤ちゃんのおしりを  
ピチャ ピチャぶった  
顔を  
クシャ クシャにして  
ワツと なきだした



## じゅうしまつ

熊小三年 荒 行浩

ぼくのじゅうしまつ  
ひまさえあれば  
クビビビ クビビビ  
ないている  
ぼくが かえると  
じまんしているように  
いっしょうけんめいなく  
今  
たまごを四つうんでいる。  
たいせつにそだてたい



## コスモス

熊小三年 佐々木敦子

私より せが高い コスモス  
赤  
白  
ピンク  
きれいだなあ  
いつも  
学校にくる時  
「おはよう」と あいさつする  
らい年も  
また たくさん  
私の にわに  
さいてもらいたい



## 短歌

相田 美恵子

いつるよりか麦茶のかほり漂ひて  
朝すがしく夫を送りぬ  
汗ぬぐいあえぎつつ歩むをおいこ  
して鼻歌の老人自転車こぎゆく  
飯 田 良 江  
一条の両手首より腕まで伝ふと言  
ひし梨もぐら  
したたかに降りたる昨夜の雨霽て  
水たまりに高き空の映れる

小林 かおる

甘きつゆしたたる梨をほはばる娘  
に物思う日も遠くあらぬと  
門べなるもくせい香のただよい  
にそっと息つき友を見るぬ  
鎌 田 清 衛

頼みたるひとを断る言訳の言葉さ  
がす胸裡熱く

明日よりは梨をとらんと思ふ夜の  
テレビは洋上の台風映す  
湯の宿に哀調帯びし盆唄をはるけ  
く聞きて膳に向ひぬ  
石段をのぼりのぼれば木洩日のか  
すかなるなか廟所の在す  
渡 部 富久子

敬老の日娘に贈られしシャツの柄  
不安なれども笑みて礼述べ  
秋の日も疾く落ち暮れ夕焼けに送  
電塔の黒き影立つ  
佐 藤 祐 禎

涼やかな眼を張りて野良犬のわれ  
を見上げてしきり尾を振る  
われ若しとつねに思へども逝く雲  
の戻らぬ空をしばし眺むる

胎動に母性本能目ざめしと高齡初  
産の友はほゝえむ  
けたたましくミンミン蝉はなきは  
じむじかき夏を惜しむごとくに

柿むきて子らの寄りし来る茶の間  
波立に波かがやけり秋日和なり  
三月ぶり我家の庭の秋の色  
暮れなずむ秋夕映えのみごとさよ  
今摘みし紫蘇の香りを指に残しけり  
口紅を指したる山やななかまど  
とり入れの疲れ身に無し秋ざくら  
秋耕の手順考え目覚めては  
中 山 貞 夫

峡田の秋の色かな朝の再  
ほる酔いの愚痴を夜露にこぼしけり  
白萩の風を誘ひて散り急ぐ  
孫達に肩たゝかされて敬老日  
菊なます友訪れて味わいり  
金木犀躰の外にもこぼれおり  
虫の音に送られて出る旅の朝  
秋櫻疎遠を詫びる文のきて

木村 蓉 子

## 俳句



兼田 光子

電話来てまづ名月を賞でにけり  
月光を茶の間に入れてワイン酌む  
川 木 裕 子  
マイクより読経流るる秋日和  
今年はもいびつなる月祭りけり  
猪 井 静 枝  
ゲートボールを追ふ目に秋桜  
電柱の何を思案の梅雨がらす

菅野 ミヨ

健康で楽しく働ける 豊かなまちを つくりましょう  
みんなで助けあい 明るいまちを つくりましょう  
きまりを守り 平和な住みよいまちを つくりましょう  
自然を愛し きれいなまちを つくりましょう  
進んで学び 香り高い文化のまちを つくりましょう

中 山 安 子

健康で楽しく働ける 豊かなまちを つくりましょう  
みんなで助けあい 明るいまちを つくりましょう  
きまりを守り 平和な住みよいまちを つくりましょう  
自然を愛し きれいなまちを つくりましょう  
進んで学び 香り高い文化のまちを つくりましょう

結 城 千 代 子

健康で楽しく働ける 豊かなまちを つくりましょう  
みんなで助けあい 明るいまちを つくりましょう  
きまりを守り 平和な住みよいまちを つくりましょう  
自然を愛し きれいなまちを つくりましょう  
進んで学び 香り高い文化のまちを つくりましょう

中 山 安 子

健康で楽しく働ける 豊かなまちを つくりましょう  
みんなで助けあい 明るいまちを つくりましょう  
きまりを守り 平和な住みよいまちを つくりましょう  
自然を愛し きれいなまちを つくりましょう  
進んで学び 香り高い文化のまちを つくりましょう

木 村 蓉 子

健康で楽しく働ける 豊かなまちを つくりましょう  
みんなで助けあい 明るいまちを つくりましょう  
きまりを守り 平和な住みよいまちを つくりましょう  
自然を愛し きれいなまちを つくりましょう  
進んで学び 香り高い文化のまちを つくりましょう

木 村 蓉 子

## 町民憲章



健康で楽しく働ける 豊かなまちを つくりましょう  
みんなで助けあい 明るいまちを つくりましょう  
きまりを守り 平和な住みよいまちを つくりましょう  
自然を愛し きれいなまちを つくりましょう  
進んで学び 香り高い文化のまちを つくりましょう







# スポーツに真善美を求めて

大熊町弓道会 鎌田清衛

武道館の完成と同時に発足した大熊町弓道会も年毎に会員も増えそれぞれが毎日稽古に励んでおります。

ほとんどの会員が職業を持った一般人で、日中の練習は日曜を除いては少なく、自ら夜間の練習となつています。弓道の場合はあつち(的場)が外になつてゐるため悪天候の場合は出来ないが、それ以外は毎日誰かが稽古に余念がありません。

発足二年目の今年は県内においてもその在在知られていなかった大熊町弓道会にとっては飛躍の年であつたと思われまふ。その一、全日本弓道連盟の昇段審査に合格した者が三十名になりました。

四段 二名  
三段 五名  
二段 十三名  
初段 九名  
二級 一名  
その二、主な弓道大会参加の成績  
五月五日 須賀川ボタン祭弓道

大会(個人)優勝

石田忠一

六月六日 県三道大会

(団体)優勝

八月八日 県総体弓道大会

成年女子団体総合第二位 成年女子近の優勝

八月二十七日 東北大会(国体)

選手が出場

団体 福島県 優勝

(60射47中)

個人 元木寛二 優勝(20射20中)

十月三日 国民体育大会(島根)

(県代表三名大熊より元木寛二選手出場)

予戦通過は県として10年目

決勝 二回戦で敗れる

元木選手は予戦から敗れるまで全射の中で個人としてベストであつた。

目まぐるしく流動化するせちがらい社会に生活しているのに弓道のような古式のスポーツに何故心

ひかれて稽古に汗を流すのだろうか。世の中が忙しくなり、人の心も落着きが無くなり空虚さを感じれば感じる程、心身両面の落着きを求めるのかも知れません。弓道は格闘技と違い自身との闘いであり、それには射法の形式に従わなければならぬので厳しさが伴います。その究極の目標は真(真実の探究)善(心的態度の平常心)美(荘厳性と人間の進退周還)の追求となつて、弓道に励む者として張りつめた矢が放たれた的中の時、どんなスポーツでも同じですが、本人でなければ味えない爽快感に満たされます。この気持ちをみんなに知って欲しいのです。



## 雑感

赤とんぼがネグラに帰る夕暮れどき、一日中の野良仕事で心身共にたくたに疲れ、我が愛車ならぬトラクターにまたがり、ハンドルを握り、道平街道を我家と急ぐふと道路ばたをみると、今を盛りとコスモスの花が満開に咲きみだれ、秋風にそよそよと、丁度みちを通る人々に挨拶でもして居るようみえる。私も思わず、やー、きれいだなーきれいだなー本当にきれいだなしと感動しました。

赤、白、エンヂ、色もそれぞれで、何のこだわりもなく……思わずトラクターより下りて、一輪手にとり、花びらをかぞえたりして花びらは八枚、本当に未広だあーとコスモスって秋ざくらとか。コスモスの花を見るたびに、私の幼きころ、今は亡き母が当時四円の「ホマチ」で作ってもらったメリンスにコスモスの花の模様のついた長い袖の羽織をよるこんで明治節に着て式に出た思い出など、今もなお走馬燈のように脳裏に残っております。

コスモスの花が終わったら、老人クラブで植えてくれた菊のつぼみも大きくなり、さくばかりです。古殿町のコスモス街道ならぬ、道平コスモス街道があつたんだなーと一人ほゝえむ。コスモスさんよ来年も又きれいな花をいっぱい咲かせて下さいね

……  
ジャー、バイバイ、コスモスさんに別れをつげたら、又明日も元気でネ……と云うように、クキをくねくねとくねらせてあいさつしてのように見える。私も疲れが一ぺんに秋風と一緒にどこかへ、ふつとんでしまった。

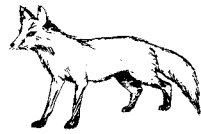
さあ、私もがんばるぞ!!  
路傍に咲く草花に負けないように!!  
大川原一主婦

## 図書あんない

このほど、公民館では、子供向きから、成人向きまでの、新刊書約六百五十冊ほど購入し、図書室に備えてありますのでぜひ一度ご覧になつて下さい。購入した主なものを一部紹介します。

- 遠野物語 柳田 泉男
- 島で暮らす 灰谷健次郎
- 眠る盃 向田 那子
- 戦雲の夢 司馬遼太郎
- 十六の墓標(上・下) 永田洋子
- 蒲田行進曲 つかこうへい
- 螢川 宮本 輝
- 水輪(上・下) 永井 路子
- 夫婦親子男女の法律知識 自由国民社
- さし木のすべて 町田 英夫
- 日本むかし話し 寺村 輝夫
- はじめてのどうわ(三十巻) 日本のはほん(十八巻)……はか

# 不思議の物見たり聞いたり



今より五十二・三年前の事です  
が、五月下旬の午後九時ごろ町に  
酒買いにやってこと言われて庭に  
出て見ると鍛冶屋川のS宅の囲い  
の杉の木のでっぺんが赤々と輝き

下の住宅がはつきり見えるので不  
思議になり母をよんで見たがナゾ  
がとけないので、町に行つたついで  
にこの場所を見、何に事もないので  
酒を買つてもどり母に話すと  
何んでしょうと言うのである。

翌朝鳥小屋に行つて見ると昨日  
の夕方まで元気にいたふ化四・五  
十日のヒナ鳥七八羽全部がいな  
くなつていたのでこの事をA老人  
に話した所自分も昔行津川原に夜  
つきにいった時川岸の柳の大木の

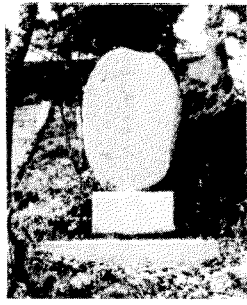
近くが赤々と成り自分が魚を取つ  
ている方にこの火柱が倒れて来た  
との事である。家に帰つてフゴを  
見ると大漁と思ひしにフゴには小  
魚四十五匹しか残つていなかった  
との事である。(これがイタチの  
火柱と言う) そうして人を火の方  
向にそらし魚を取つたり鳥を取つ  
たりするとの事である。

六月中旬になつて庭に積んであ  
つた桑の木を取りのぞくとその間  
からヒナの死がいが出て来たので  
A老人の話通りであつたと思つた。  
また、この時A老人に聞いた話で  
すが現在の富岡二小付近を大原と

いつて松山であつたとの事である。  
そこにはたくさん狐がすんでいた  
そうで、夕方Bが通りかかると道  
ばたの松の大木の切り株にCとい  
う桶屋さんがタガを掛けてかけや  
でさかんにしめていたのでBが話  
しかけると、今それどころではな  
いこの程仕事があるんだと言ひ松  
の切株を指さしたそうですが、C  
をさとしてつれ帰つたそうですが  
その後も大原では狐にだまされた  
人がたくさんいるとの事で「大原  
の大狐」とあだ名をつけたとの事  
である。

熊二区 坂本 甫

## 町史探訪



### 阿部英信氏報徳碑

夫沢長者原塞の神の境内に阿  
部英信氏の報徳碑が建つている。  
この碑文は漢文でむつかしいの  
で、これを訳すると次のように  
なる。

阿部英信君は旧中村藩士であ  
る明治八年本村及び隣村に於  
いて里正となり今に十有八年

治めて効をなさざるなし。なか  
んづく深沢溜池工事の如きは則  
ち成績最も偉大な堤塘久しく破  
壊して修築ししばしば効果なく農  
家大いに困る。

君早くよりこれを憂ひ十有八年  
に至り、ついに策を決し半年を  
出でずして一挙に効を奏するを  
得たり。爾来灌漑の利便広く当  
時廢田を復興すること凡そ五十  
余町歩の多きに至る。ああ君に  
あらずんば誰かこの役を全うせ  
んや。よつて同志相謀つて建碑  
に及ぶ。この筈はいささか君の  
偉業を掲げて称賛し同志報徳の  
意を表す

明治二十六年十月

当時仕長 石田長太郎

江下 連中

(故吉田農夫雄氏談)

この碑は磨滅して読解が困難で  
あつたが、故小畑重氏(大熊町初  
代町長)が転書しておいたものに  
よつて碑文を明らかにすることが  
できた。

阿部氏は明治八年、夫沢・小入  
野の用掛(今の村長)となり、つい  
で熊川・小良浜の用掛も兼ねた。  
同十二年、佐山・熊・熊川・小良  
浜四ヶ村の戸長となつた。夫沢・  
小入野の戸長は根本好氏(根本馨  
氏祖)であつたという。  
明治二十二年町村制実施により  
熊町一帯が合併し、同二十六年阿  
部氏が中野剛重氏のとをうけ、  
二代目村長となつた。この時中深  
沢の溜池の工事を完成させたので  
ある。

この碑はもと下深沢堤東北旧国  
道沿にあつたが塞の神境内に移

したといわれる。また塞の神も  
現在相馬公報徳碑(旧国道双葉  
町との境、東側にあつたが、明  
治三十一年常磐線開通により現  
在地に移されたという。

長者原は昔朝日長者の伝説や  
古墳などにより長者が住んでい  
たといわれるが、その後荒廃し、  
幕末時代遠く和歌山県・鳥取県  
その他の県から移民が来たが、  
相馬藩はご仕法に忙しく、恩恵  
に浴することは少なかった。し  
かし忍耐に忍耐を重ねた結果今  
日の繁栄をみるに至つた。

(松本幸一)



## 西ドイツ・スイス・フランスへ派遣!

町区 末永 一夫



昭和五十七年度日本スポー  
ツ少年団指導者協議会研修会  
(一行二十九名)に大熊町ス  
ポーツ少年団本部幹事末永一  
夫氏の派遣が決定し、五十八  
年一月十三日から二十七日ま  
での十五日間、西ドイツ・ス  
イス・フランスの諸都市を訪  
問し、交流とスポーツ組織の  
経営・活動・施設設備や行政  
施策を研修してきます。

### 編集後記

- ◎館報一二二号をお届けいたしま  
す。ご愛読ください。二十六日か  
らは全国火災予防週間が始まる。  
運動の統一スローガンは「火の用  
心の用心 目で用心」。三つ  
の用心をしっかり守りましょう。
- ◎館報の原稿をお寄せ下さい。要  
領は四百字詰原稿用紙一枚程度で  
① 主張、産業、教養、文芸に関  
するもの何でも結構です。
- ② 政治的な色彩を帯びたり、個  
人非難に属するものでないこと

お詫びと訂正

館報第121号の記事に誤りがありましたので深謝し下記のごとく訂正させていただきます。

ページ	見出し	誤	正
	クロッカー	1行	クロッカ
4	大分野上チ ームが優勝	ゲートポ ール	ー